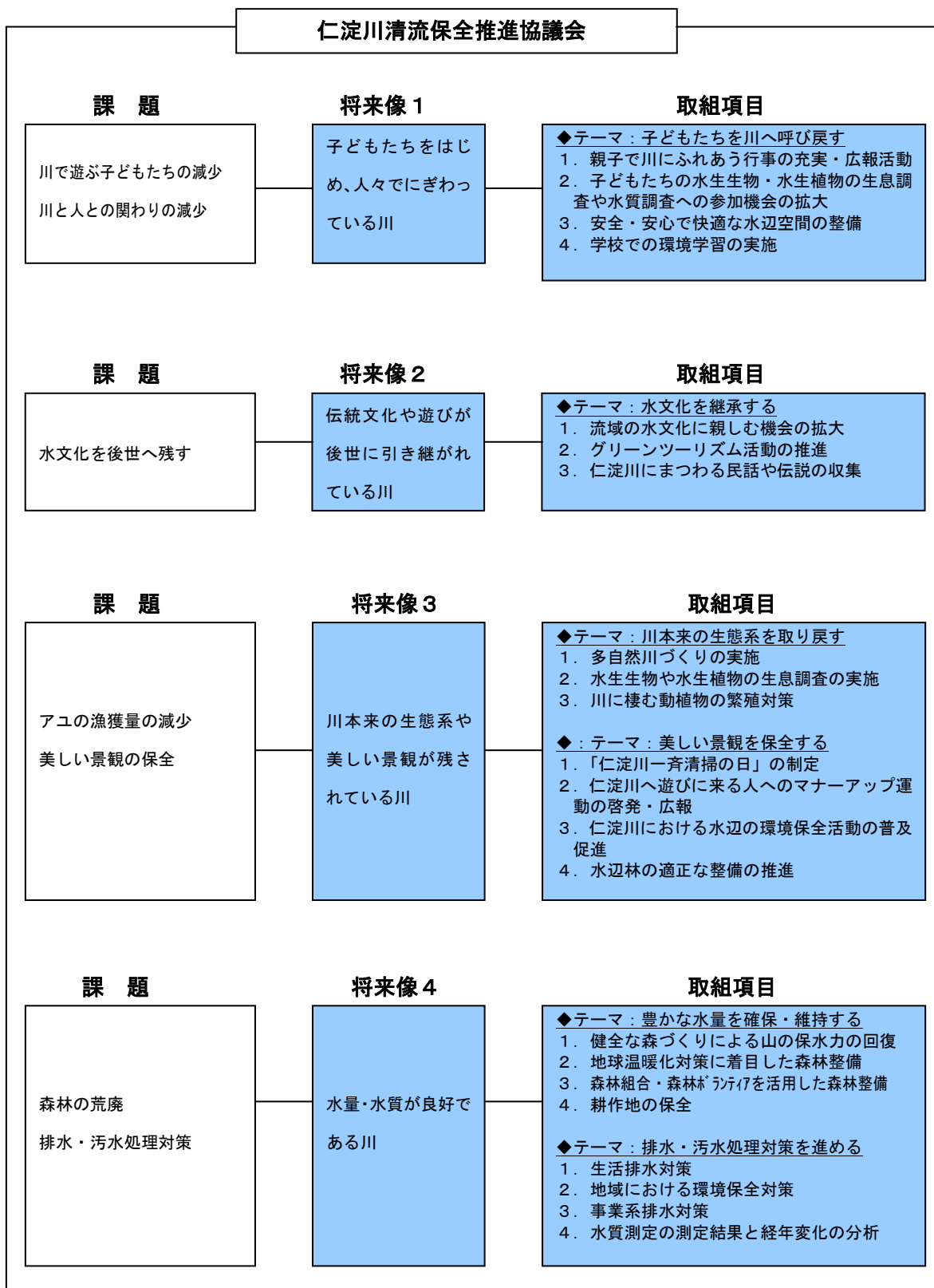


**第2次仁淀川清流保全計画取組状況
取りまとめ報告書
(平成22年度～平成25年度)**

目次

仁淀川の目指す将来像と取組内容	1
1 子どもたちを川へ呼び戻す	2
1-1 親子で川にふれあう行事の充実・広報活動	2
1-2 子どもたちの水生生物・水生植物の生息調査や水質調査への参加機会の拡大	5
1-3 安全・安心で快適な水辺空間の整備	6
1-4 学校での環境学習の実施	7
2 水文化を継承する	8
2-1 流域の水文化に親しむ機会の拡大	8
2-2 グリーンツーリズム活動の推進	8
2-3 仁淀川にまつわる民話や伝説の収集	8
3 川本来の生態系を取り戻す	9
3-1 多自然川づくりの実施	9
3-2 水生生物や水生植物の生息調査の実施	10
3-3 川に棲む動植物の繁殖対策	14
4 美しい景観を保全する	15
4-1 「仁淀川一斉清掃の日」の制定	15
4-2 仁淀川へ遊びに来る人へのマナーアップ運動の啓発・広報	16
4-3 仁淀川における水辺の環境保全活動の普及促進	16
4-4 水辺林の適正な整備の推進	17
5 豊かな水量を確保・維持する	18
5-1 健全な森づくりによる山の保水力の回復	18
5-2 地球温暖化対策に着目した森林整備	20
5-3 森林組合・森林ボランティアを活用した森林整備	21
5-4 耕作地の保全	21
6 排水・汚水処理対策を進める	22
6-1 生活排水対策	22
6-2 地域における環境保全対策	23
6-3 事業系排水対策	23
6-4 水質測定の実測結果と経年変化の分析	23
参考資料 1 仁淀川清流保全推進において急務と思われる取り組み	28
参考資料 2 取り組み項目中、優先順位の高い項目（3つを選択）	29

仁淀川の目指す将来像と取組内容



1 子どもたちを川へ呼び戻す

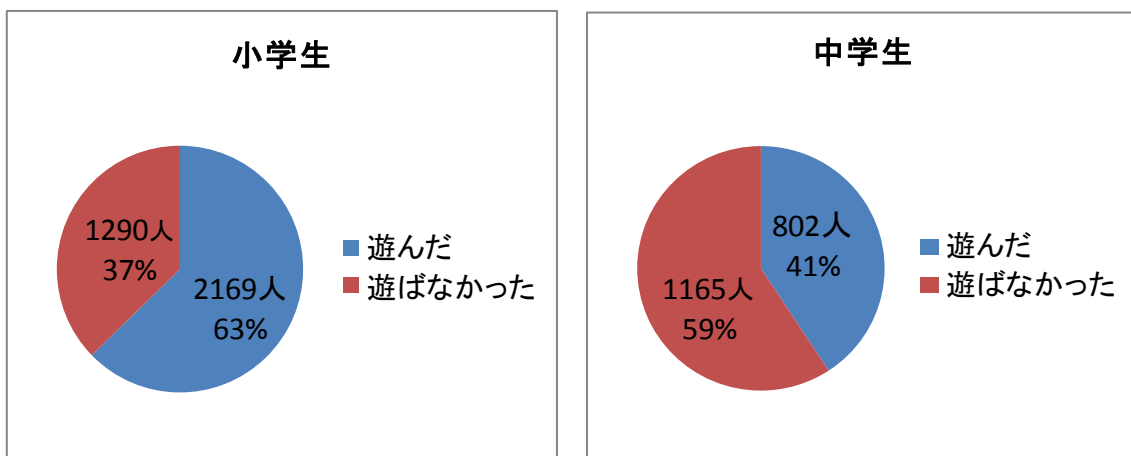
1-1 親子で川にふれあう行事の充実・広報活動

■調査方法

仁淀川流域の小学校 26 校及び中学校 15 校にアンケート用紙を配布し、調査を行った。各クラスの学級活動等で「前の学年（平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月まで）の時に、仁淀川で遊んだ（釣りや河川のイベント・行事への参加なども含む）事のある人」に手を挙げてもらい、回答とした。小学校 23 校、中学校 14 校から回答を得られた。

また、流域住民団体、事業所等、行政等計 63 団体にアンケートを配布し、行事内容の調査を行い、38 団体より回答を得られた。

■実施状況



平成 22 年度

平成 22 年 7 月 2 日	水生生物調査 場所：波川、弘岡の河原	高知河川国道事務所仁淀川出張所
平成 22 年 7 月 26 日	水生生物調査 場所：波川、弘岡の河原	高知河川国道事務所仁淀川出張所
平成 22 年 8 月 14 日	池川清流まつり 場所：宮崎の河原	仁淀川町
平成 22 年 8 月 18 日	わんぱくカーニバル in 仁淀 場所：長者川	仁淀川町 参加約 300 名
平成 22 年 10 月 1 日	水生生物調査 場所：波川、弘岡の河原	高知河川国道事務所仁淀川出張所
平成 22 年 11 月 27 日	花火大会の開催 場所：仁淀川八天大橋下流左岸	仁淀川広域花火大会実行委員会 参加：推計 1 万名

平成 23 年度

平成 23 年 8 月 12 日	わんぱくカーニバル in 仁淀 場所：長者川	仁淀川町 参加約 400 名
平成 23 年 7 月 14 日	水生生物調査 場所：波川、弘岡の河原	高知河川国道事務所仁淀川出張所
平成 23 年 7 月 15 日	水生生物調査 場所：波川、弘岡の河原	高知河川国道事務所仁淀川出張所
平成 23 年 8 月 11 日	池川清流まつり 場所：宮崎の河原	仁淀川町
平成 23 年 8 月 13 日	池川清流まつり 場所：宮崎の河原	仁淀川町
平成 23 年 8 月 20 日	川遊び体験ツアー	土佐市 参加 40 名
平成 24 年 3 月 18 日	こども水辺安全講座 場所：波川公園前川原	仁淀川お宝探検団 参加 5 名

平成 24 年度

平成 24 年 7 月 10 日	水生生物調査 場所：波川、弘岡の河原	高知河川国道事務所仁淀川出張所
平成 24 年 8 月 5 日	鮎×愛ふれあい祭り 場所：宮崎の河原	仁淀川町 参加約 150 名
平成 24 年 8 月 9 日	わんぱくカーニバル in 仁淀 場所：長者川	仁淀川町 参加 325 名
平成 25 年 3 月 31 日	記念植樹 場所：奥田川親水公園伊野南小学校前	仁淀川地域観光協議会 参加約 200 名

平成 25 年度

平成 25 年 5 月及び 9 月	水生植物・生物観察、水質調査、清掃 場所：奥田川	伊野南小学校 参加 32 名
平成 25 年 6 月 3 日	身近な水環境の全国一斉調査 場所：仁淀川本流支流 6 地点	仁淀川お宝探検団 参加 5 名
平成 25 年 7 月 4 日	水生生物調査 場所：波川、弘岡の河原	高知河川国道事務所仁淀川出張所
平成 25 年 7 月 11 日	水生生物調査 場所：波川、弘岡の河原	高知河川国道事務所仁淀川出張所

平成 25 年 7 月 20 日	親子河口観察教室 仁淀川河口	県立高知青少年の家 参加 20 名
平成 25 年 7 月 21 日	奥田川親水公園の会・総会 場所：奥田川親水公園	伊野南小学校 参加 40 名
平成 25 年 7 月 27 日	親子ガサガサ体験教室 いの町波川緑地公園	県立高知青少年の家 参加 31 名
平成 25 年 7 月 28 日	親子かんきょう学習会 場所：波川地区河川敷	環境研究センター 参加 65 名
平成 25 年 8 月 1 日	わんぱくカーニバル in 仁淀 場所：長者川	仁淀川町 参加約 350 名
平成 25 年 8 月 4 日	鮎×愛ふれあい祭り 場所：宮崎の河原	仁淀川町 参加約 150 名
平成 25 年 8 月 17 日	池川清流まつり 場所：宮崎の河原	仁淀川町
平成 25 年 8 月 18 日	カヤック体験教室 場所：仁淀川大橋下流	土佐市 参加 30 名
平成 25 年 8 月 18 日	水生生物の観察 場所：仁淀川大橋下流	土佐市 参加 30 名
平成 25 年 8 月 25 日	仁淀川国際水切り大会 場所：波川公園前川原	仁淀川お宝探検団 参加 150 名
平成 25 年 9 月～11 月	奥田川親水公園除草作業（4回） 場所：奥田川親水公園	伊野南小学校 参加 40 名

その他

年約 6 回	清掃活動 場所：梅ノ木川	川と山・ふるさと夢の会 参加約 150 名
年 1 回	河床の草刈り・除草 場所：梅ノ木川	川と山・ふるさと夢の会 参加約 30 名

■まとめ

平成 25 年度に仁淀川で遊んだ子どもは、小学生で 63%、中学生では約 41%であった。行事については、平成 22 年度から平成 25 年度にかけて、少なくとも 9 団体、合計 42 件（川と山・ふるさと夢の会を 1 年に 7 件、伊野南小学校を 6 件とカウント）のイベントが開催されている。参加合計約 12,543 名（花火大会 1 万名を含む、参加人数不明分を除く）。子どもを対象にした清掃活動や学習会など様々な集いが開催されている。夏期においてはレジャー系のイベントも開催されている。

1-2 子どもたちの水生生物・水生植物の生息調査や水質調査への参加機会の拡大

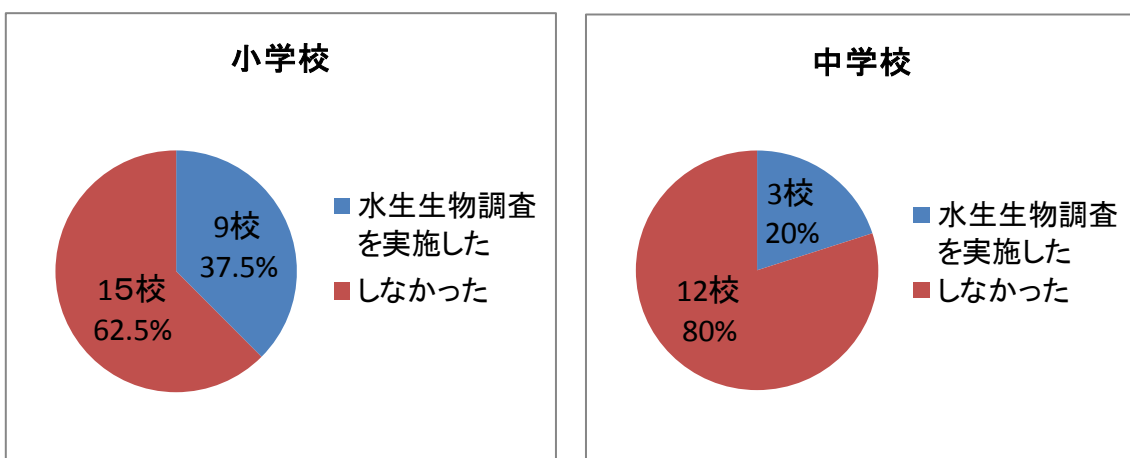
■調査方法

仁淀川流域の小学校 26 校及び中学校 15 校にアンケート用紙を配布し、平成 25 年度に総合的な学習などで「水生生物調査」及び「水質調査（パックテストなど）」を実施されたか否かの調査を行った。小学校 23 校、中学校 14 校から回答を得られた。

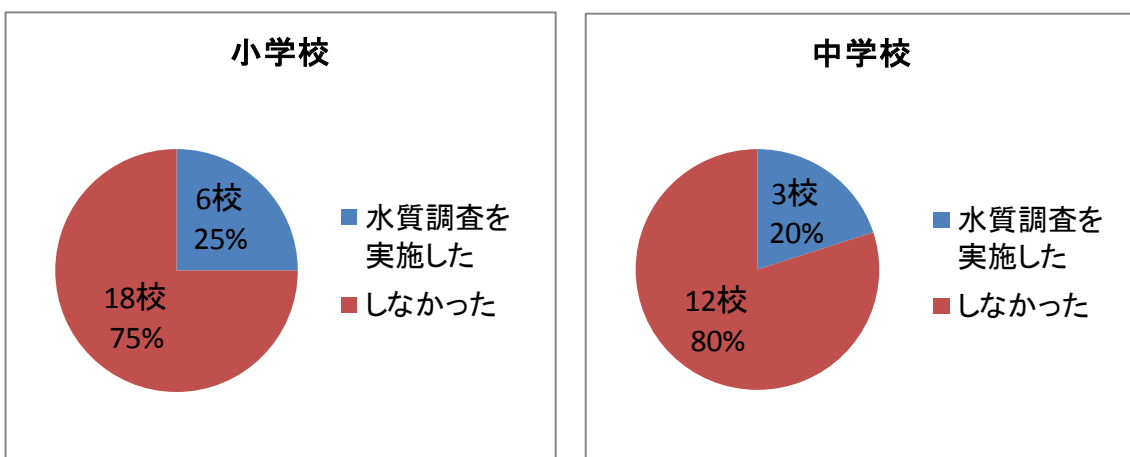
また、流域住民団体、事業所等、行政等計 63 団体にアンケートを配布し、水生生物調査や水質調査の実施状況の調査を行い、38 団体より回答を得られた。

■実施状況

●水生生物調査



●水質調査



・土佐市

平成 25 年 8 月 18 日 水生生物の観察

(場所：仁淀川大橋下流、対象：小学生と保護者、参加 30 名)

・高知河川国道事務所仁淀川出張所

平成 22 年 7 月 2 日、26 日、10 月 1 日、水生生物調査

平成 23 年 7 月 14 日、15 日、

平成 24 年 7 月 10 日、

平成 25 年 7 月 4 日、11 日

(場所：波川、弘岡の河原、対象：小学生)

・環境研究センター

平成 25 年 7 月 28 日 親子かんきょう学習会

(場所：波川地区河川敷、対象：小学生と保護者、参加 65 名)

・県立高知青少年の家

平成 25 年 7 月 20 日 親子河口観察教室

(場所：仁淀川河口、対象：小学生と保護者、参加 20 名)

平成 25 年 7 月 27 日 親子ガサガサ体験教室

(場所：いの町波川緑地公園、対象：小学生と保護者、参加 31 名)

・川と山・ふるさと夢の会

年 1 回環境学習出前授業 (場所：越知小学校、4 年生児象、参加約 50 名)

■まとめ

小学校での環境学習の実施は水生生物調査が 37.5%、水質調査が 25%に対し、中学校では両調査とも 20%の取り組み状況であった。その他の取り組みとしては、上記 5 団体による 13 件のイベントが開催されている。

1-3 安全・安心で快適な水辺空間の整備

■調査方法

流域住民団体、事業所等、行政等計 63 団体にアンケートを配布し、整備状況の調査を行った。

■実施状況

確認できず。

1-4 学校での環境学習の実施

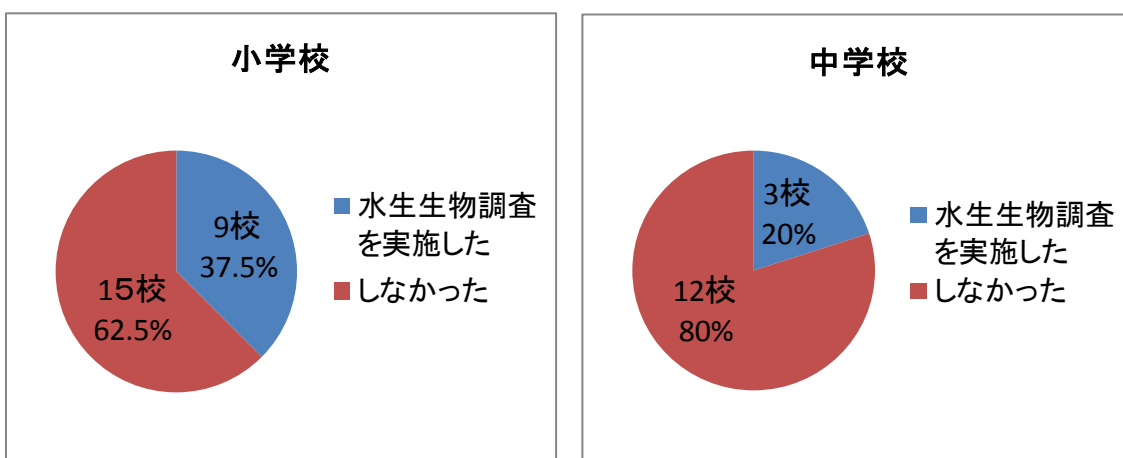
■調査方法

仁淀川流域の小学校 26 校及び中学校 15 校にアンケート用紙を配布し、平成 25 年度に総合的な学習などで「水生生物調査」及び「水質調査（パックテストなど）」を実施されたか否かの調査を行った。小学校 23 校、中学校 14 校から回答を得られた。

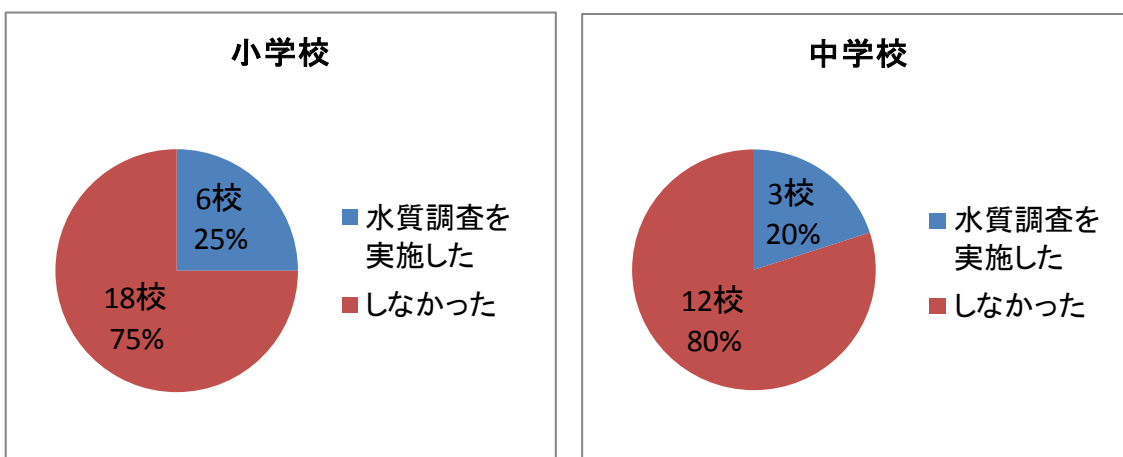
(1-2 子どもたちの水生生物・水生植物の生息調査や水質調査への参加機会の拡大と同調査及び結果)

■実施状況

●水生生物調査



●水質調査



■まとめ

小学校での環境学習の実施は水生生物調査が 37.5%、水質調査が 25%に対し、中学校では両調査とも 20%の取り組み状況であった。

2 水文化を継承する

2-1 流域の水文化に親しむ機会の拡大

■調査方法

流域住民団体、事業所等、行政等計 63 団体にアンケートを配布し、状況調査を行った。

■実施状況

確認できず。

2-2 グリーンツーリズム活動の推進

■調査方法

地域観光課へ照会。

■実施状況

高知県を 6 エリアに分けてグリーンツーリズムを紹介する「RURAL（るーらる）高知」を年 1 回発行。平成 25 年度は 12,000 部発行。

2-3 仁淀川にまつわる民話や伝説の収集

■調査方法

流域住民団体、事業所等、行政等計 63 団体にアンケートを配布し、状況調査を行った。

■実施状況

確認できず。

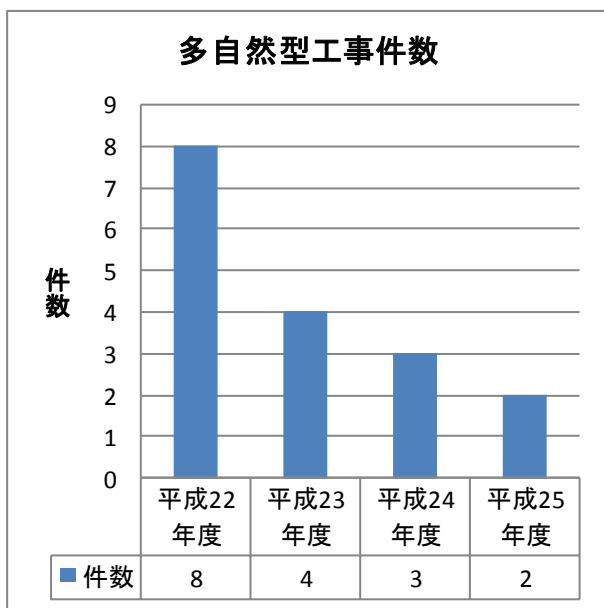
3 川本来の生態系を取り戻す

3-1 多自然川づくりの実施

■調査方法

河川課へ照会

■実施状況



平成 22 年度

仁淀川	吾川郡いの町柳瀬	落差工
久万目川	高岡郡越知町越知他	護床工
狩山川	吾川郡仁淀川町見ノ越	護岸工、帯工
幸田川	佐川町斗賀野	帯工
西山川	佐川町西山	水制工
斗賀野川	佐川町斗賀野	水制工
久万目川	佐川町女川	帯工
狩山川	仁淀川町見ノ越	帯工

平成 23 年度

春日川	高岡郡佐川町永野	護床工・測試
坂折川	高岡郡越知町越知甲	護床工・測試
狩山川	吾川郡仁淀川町見ノ越	護床工・測試
仁淀川	吾川郡いの町柳瀬	分散型落差工

平成 24 年度

中野川	高岡郡佐川町二ツ野	護床工
立野川	高岡郡佐川町川内ヶ谷	護床工
狩山川	吾川郡仁淀川町見ノ越	根継工

平成 25 年度

中野川	高岡郡佐川町二ツ野	護床工
狩山川	吾川郡仁淀川町見ノ越	護床工

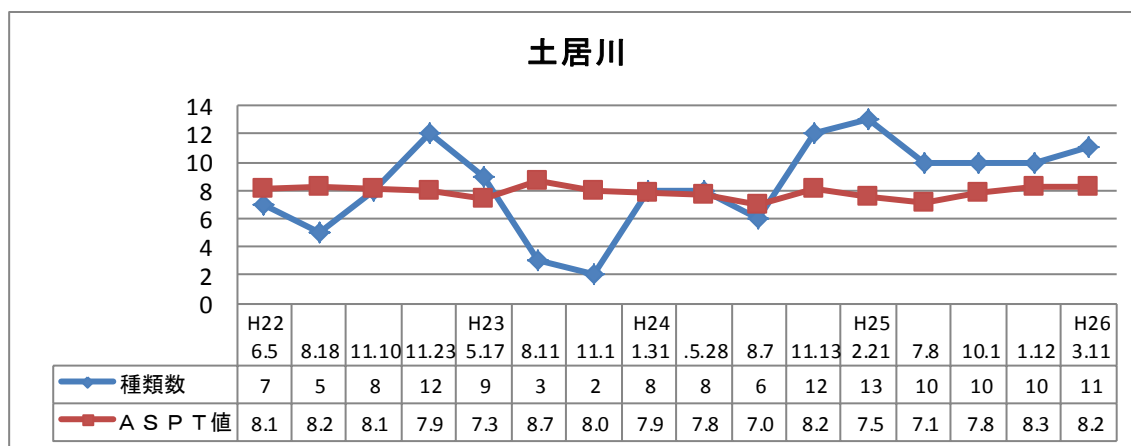
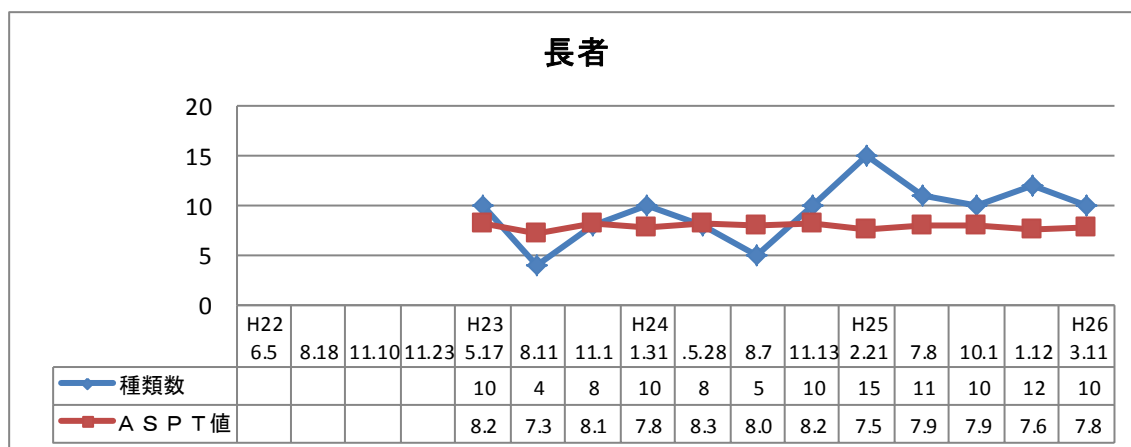
3-2 水生生物や水生植物の生息調査の実施

■調査方法

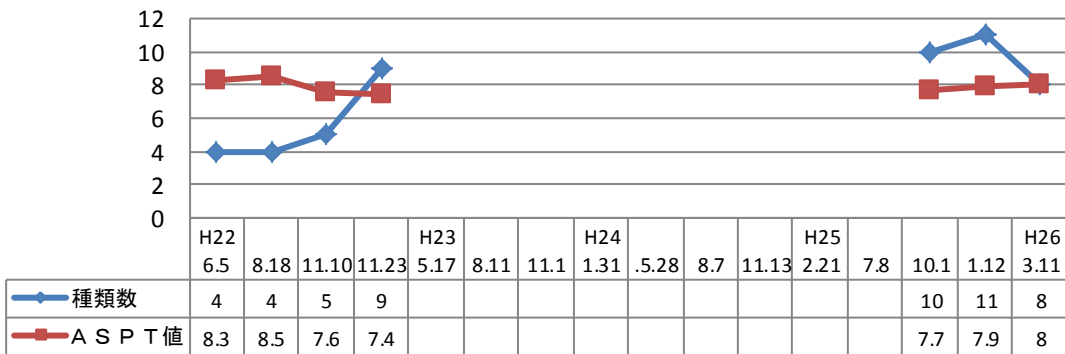
環境研究センターへ照会

■実施状況

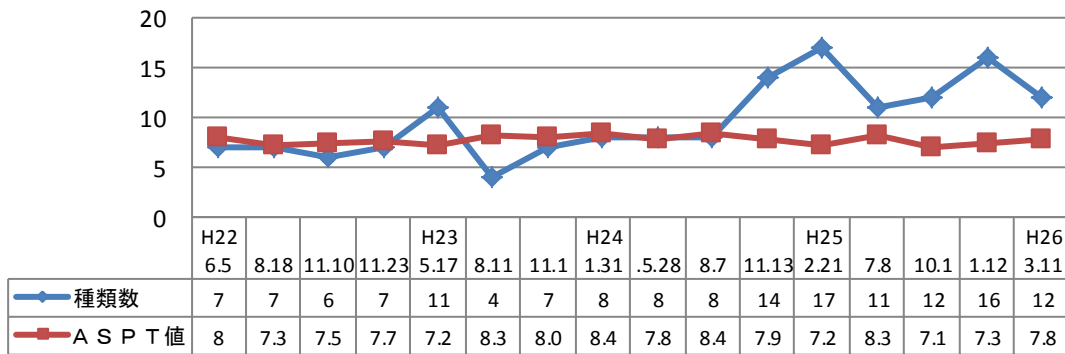
仁淀川流域 8 か所での水生生物種類及び ASPT 値（平均スコア値）調査



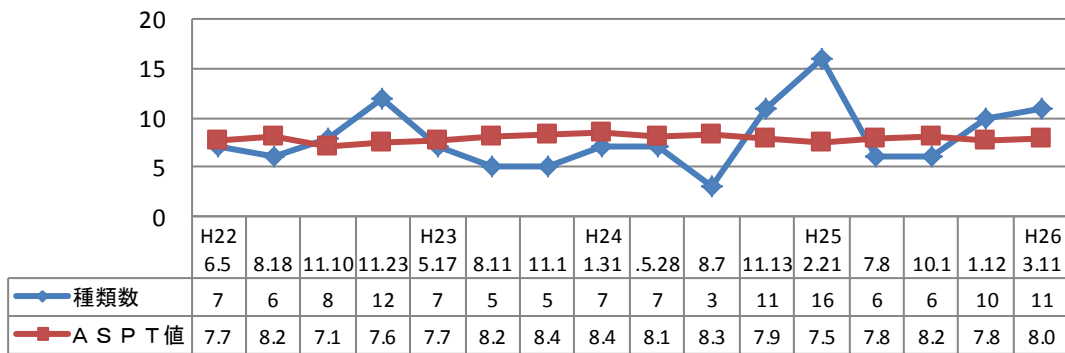
大崎

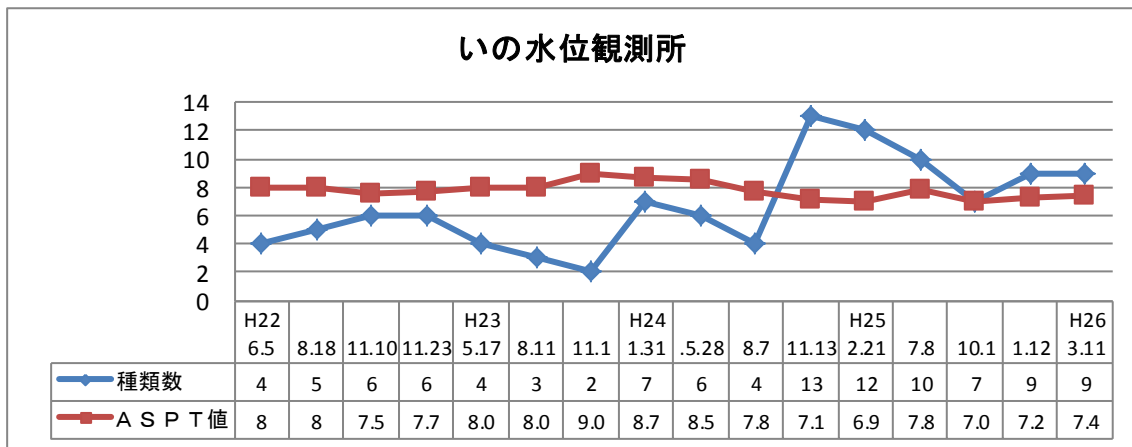
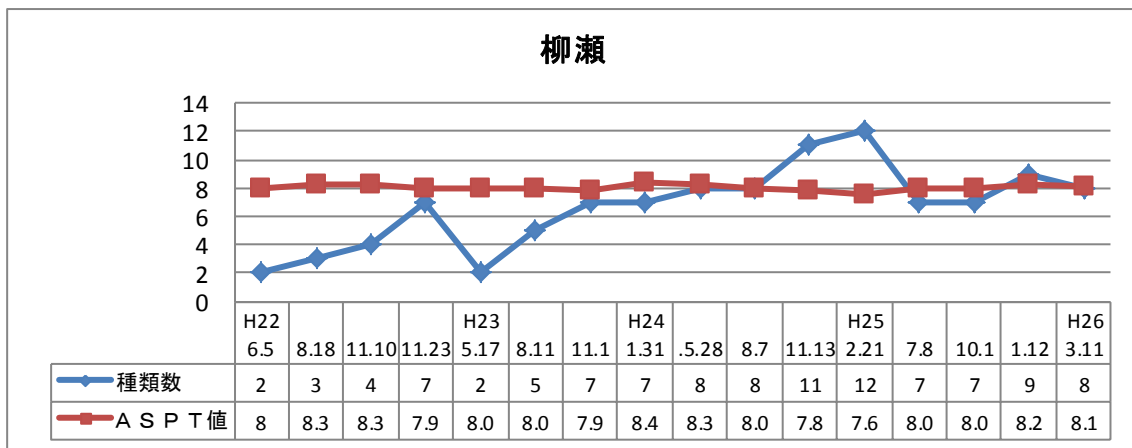
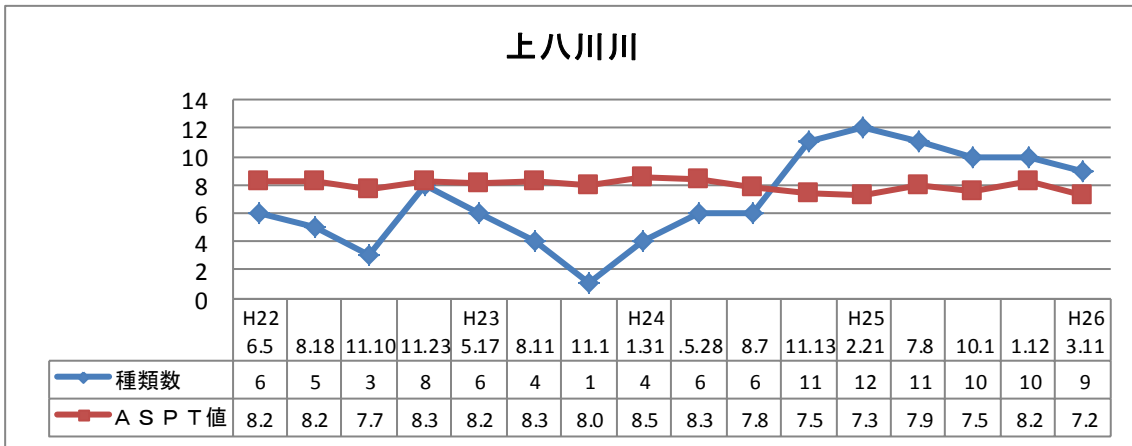


坂折川



中仁淀沈下橋





●ASPT 値

ASPT 値とは、水生生物から水質状況を判定する平均スコア値のこと。
 値の求め方は下記（小数点第二位以下四捨五入）。

$$\text{ASPT値} = \frac{\text{見つかった指標生物のスコア値の合計}}{\text{指標生物種類数}}$$

●指標生物とスコア値

指標生物	スコア値	指標生物	スコア値
アミカ	10	テナガエビ	7
サワガニ	9	プラナリア	7
チラカゲロウ	9	コカゲロウ	6
ヒラタカゲロウ	9	キイロカワカゲロウ	6
カワゲラ	9	ヒラタドロムシ	6
ナガレトビケラ	9	ホタル	6
携巢性トビケラ	9	スジエビ	6
ヘビトンボ	9	モクズガニ	6
ヨコエビ	9	イシマキガイ	6
タニガワカゲロウ	8	アミメカゲロウ	5
マダラカゲロウ	8	タイコウチ・ミズカマキリ	5
ヒゲナガカワトビケラ	8	シジミガイ	5
ナガレアブ	8	タニシ	4
カワニナ	8	モノアラガイ	3
モンカゲロウ	7	ヒル	2
サナエトンボ	7	ミズムシ	2
ナベブタムシ	7	アメリカザリガニ	1
シマトビケラ	7	赤いユスリカ(腹エラあり)	1
ガガンボ	7	サカマキガイ	1
ブユ	7	イトミミズ	1

●水質階級判定基準

水質階級	指標生物種類数	ASPT値
1	10種以上	7.5以上
2	8種以上	7.0以上
3	7種以上	6.0以上
4	6種以上	5.0以上
5	5種以上	3.0以上
6	4種以下	3.0未満

■その他取り組み

- ・横倉山自然の森博物館友の会

平成 25 年 6 月 1 日 第 10 回身近な水環境の全国一斉調査 参加 9 名 ※毎年開催

- ・高知河川国道事務所

平成 22 年 5 月～23 年 3 月 底生動物調査

平成 23 年 9 月～24 年 3 月 植物群落調査

平成 24 年 4 月～25 年 3 月 両生類・は虫類、哺乳類調査

■まとめ

環境研究センターに照会した水生生物種類及び ASPT 値調査によると、季節によって種類数、個体数が少ない地点があるが、出現する水生生物のランクはほぼ同じであり、ASPT 値については本川、支川での差はあまり見られなかった。また、いの水位観測所については河川の増水による川床が大きく変化するため注意が必要である。

その他取り組みとしては、横倉山自然の森博物館友の会、高知河川国道事務所の取り組みが定期化してきている模様である。

3-3 川に棲む動植物の繁殖対策

■調査方法

流域住民団体、事業所等、行政等計 63 団体にアンケートを配布し、状況調査を行った。

■実施状況

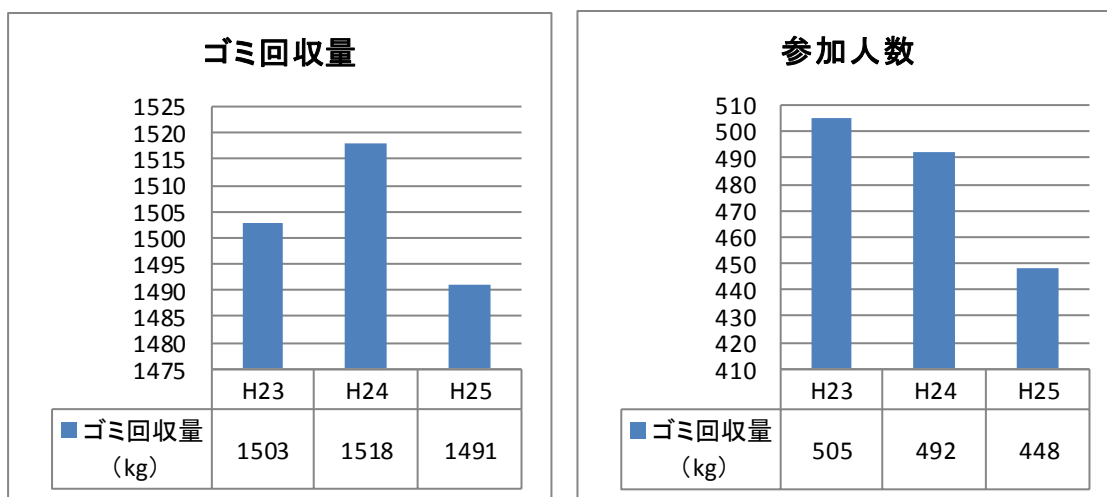
確認できず。

4 美しい景観を保全する

4-1 「仁淀川一斉清掃の日」の制定

平成 23 年より、10 月 24 日を「仁淀川・環境の日」と制定し、その前後の土曜日に流域全体で一斉清掃を行っている。

■実施状況



■その他清掃活動

- ・ 沖名調整池を活かす会 10 件 参加合計 795 名
- ・ 伊野ライオンズクラブ 19 件 参加合計 125 名
- ・ 仁淀川の自然と清流を守る会 毎年 8 件程度 参加合計年約 302 名
- ・ 仁淀川町 毎年 1 回 参加合計年約 30 名
- ・ 越知町 1 件 参加合計約 50 名
- ・ 高知河川国道事務所 7 件
- ・ 高知春野農業協同組合 5 件 参加合計 260 名

■まとめ

仁淀川一斉清掃によるゴミ回収量は平成 23 年度 1503 kg、平成 24 年度 1518 kg、平成 25 年度 1491 kg と、平成 24 年度の総量が多い。参加人数に関しては、平成 23 年度 505 名、平成 24 年度 492 名、平成 25 年度 448 名と年々減少傾向にある。

その他取り組みは、清掃に関しては 7 団体 51 件（毎年開催は 1 年分でカウント）、参加者合計約 1562 名と積極的に取り組まれていることがわかる。

4-2 仁淀川へ遊びに来る人へのマナーアップ運動の啓発・広報

■調査方法

流域住民団体、事業所等、行政等計 63 団体にアンケートを配布し、状況調査を行った。

■実施状況

確認できず。

4-3 仁淀川における水辺の環境保全活動の普及促進

■調査方法

環境共生課へ照会

■実施状況

協働の川づくり事業（環境共生課担当）

①「アサヒビール株式会社高知支社」の取組

平成 20 年度より、対象ビール 1 本につき 1 円の売り上げを、仁淀川流域で水質保全や森林整備等を行う団体に対して寄付する「四国の水・森に感謝」キャンペーンを実施している。

②「高知食糧株式会社」の取組

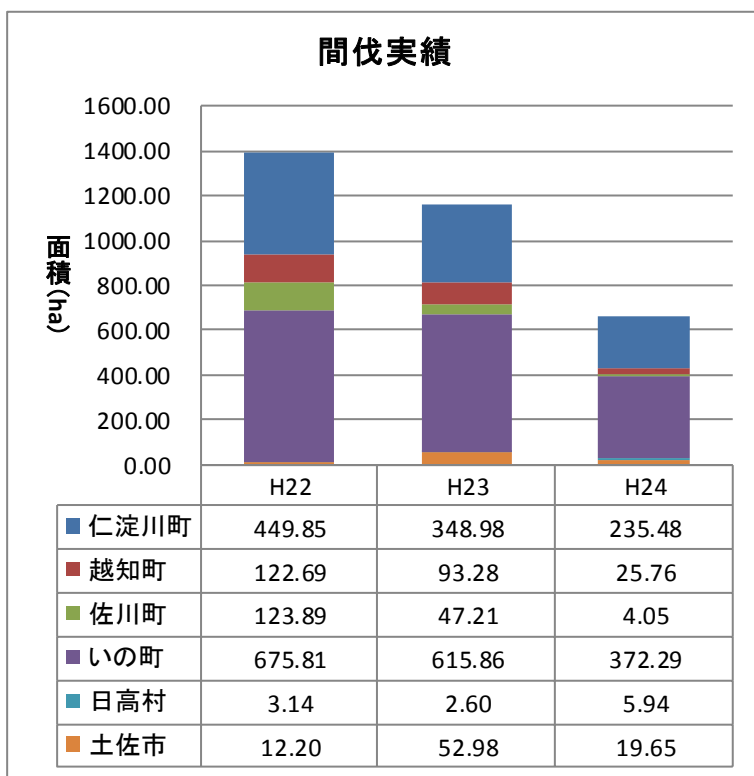
平成 23 年度より、対象商品「無洗米」1 キログラムにつき 1 円の売り上げを、県内で活動する清流保全活動団体に寄付し、県内の河川の環境保全活動に協力している。

4-4 水辺林の適正な整備の推進

■調査方法

木材増産推進課へ照会。水辺林を含めた森林の適正な整備状況として間伐実績を調査。

■実施状況



■その他取り組み

- ・ によど川森林救援隊による仁淀川流域間伐 4件 間伐面積 34.67ha
- ・ 土佐の森・救援隊による山林間伐 年間通して実施 参加延べ 1000名超
- ・ 高知中央森林組合による程野山間伐 4件 参加合計 219名

■まとめ

平成 22 年度 1,387.58ha、平成 23 年度 1,160.91ha、平成 24 年度 663.17ha の合計 3,211.66ha の間伐が行われている。その他取り組みとしては、少なくとも 3 団体が取り組みを行っている。

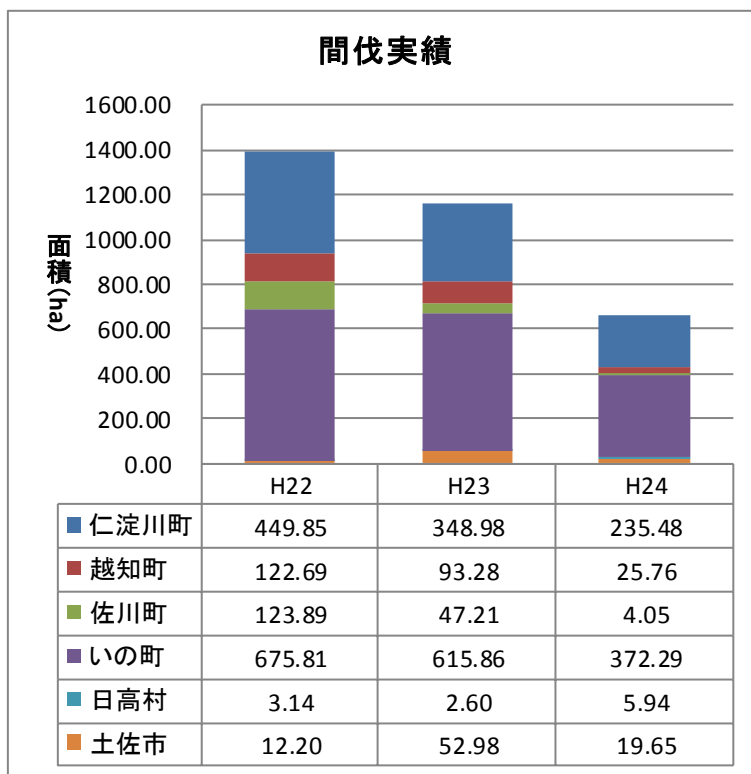
5 豊かな水量を確保・維持する

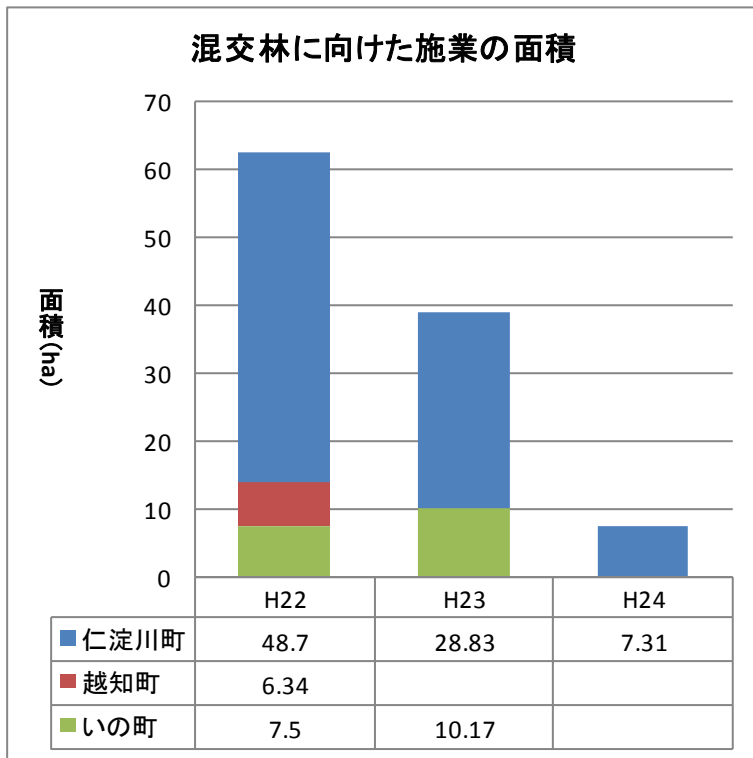
5-1 健全な森づくりによる山の保水力の回復

■調査方法

木材増産推進課へ照会。森林の適正な整備状況として間伐実績及び混交林に向けた施業実績を調査。

■実施状況





■ その他取り組み

- ・ によど川森林救援隊による仁淀川流域間伐 4件 間伐面積 34.67ha
- ・ 土佐の森・救援隊による山林間伐 年間通して実施 参加延べ 1000名超
- ・ 高知中央森林組合による程野山間伐 4件 参加合計 219名
- ・ 仁淀川森林組合による黒森山植樹
- ・ 高知市

昭和 55 年以降、自流量及びダムの操作水量の安定化や、水質保全の向上をめざし、水源地域の自然林を取得する「水源かん養林取得事業」を実施。平成 25 年度末現在（見込み）仁淀川推計で 832.048 m²を取得

■ まとめ

平成 22 年度 1,387.58ha、平成 23 年度 1,160.91ha、平成 24 年度 663.17ha の合計 3,211.66ha の間伐が行われている。

また、混交林に向けた施業として、平成 22 年度 62.54ha、平成 23 年度 39.00ha、平成 24 年度 7.31ha の合計 108.85ha の施業が行われている。

5-2 地球温暖化対策に着目した森林整備

■調査方法

林業環境政策課及び環境共生課へ照会

■実施状況

●協働の森づくり事業を活用した森林整備[ha]

	H22年度		H23年度		H24年度		合計	
	切捨 間伐 (ha)	搬出 間伐 (ha)	切捨 間伐 (ha)	搬出 間伐 (ha)	切捨 間伐 (ha)	搬出 間伐 (ha)	切捨 間伐 (ha)	搬出 間伐 (ha)
仁淀川町		6.60	1.00	1.20		1.40	1.00	9.20
越知町	4.10		4.11			0.30	8.21	0.30
佐川町	2.90		2.41		2.41		7.72	0.00
いの町	25.21		45.68		25.76		96.65	0.00
土佐市	1.00		0.80				1.80	0.00
合計	33.21	6.60	54.00	1.20	28.17	1.70	115.38	9.50

・協働の森づくり事業

環境先進企業・市町村等・高知県の間で「協働の森パートナーズ協定」を締結し、手入れの行き届かない森林の再生に取り組む事業。適正な整備を行った森林のCO₂吸収量を京都議定書に準じて算定し、「CO₂吸収証書」として発行

●高知県 J-VER 制度を活用した森林整備[ha]

	H23年度	H24年度	合計
いの町	14.53	7.11	21.64

・高知県 J-VER 制度

国が行っていたオフセット・クレジット（J-VER）制度に整合した制度で、国の認証を受け、県が運営主体となって森林の持つ環境価値を市場流通可能なクレジットとして認証・発行する制度。森林整備に資金を還元する制度として注目されている。現在は J-クレジット制度に変更されている。

■まとめ

協働の森づくり事業を活用した森林整備では平成 22 年度に切捨間伐 33.21ha、搬出間伐 6.6ha、平成 23 年度に切捨間伐 54ha、搬出間伐 1.2ha、平成 24 年度に切捨間伐 28.17ha、搬出間伐 1.7ha の合計切捨間伐 115.38ha、搬出間伐 9.5ha の森林整備が行われている。

高知県 J-VER 制度を活用した森林整備としては、いの町で平成 23 年度 14.53ha、平成 24 年度 7.11ha の森林整備が行われている。

5-3 森林組合・森林ボランティアを活用した森林整備

■調査方法

林業環境政策課へ照会

■実施状況

森林保全ボランティアへチェーンソー支給した実績として、いの町で平成 22 年度 0.5ha、23 年度 0.2ha、24 年度 0.4ha の合計 1.1ha の森林整備が行われている。

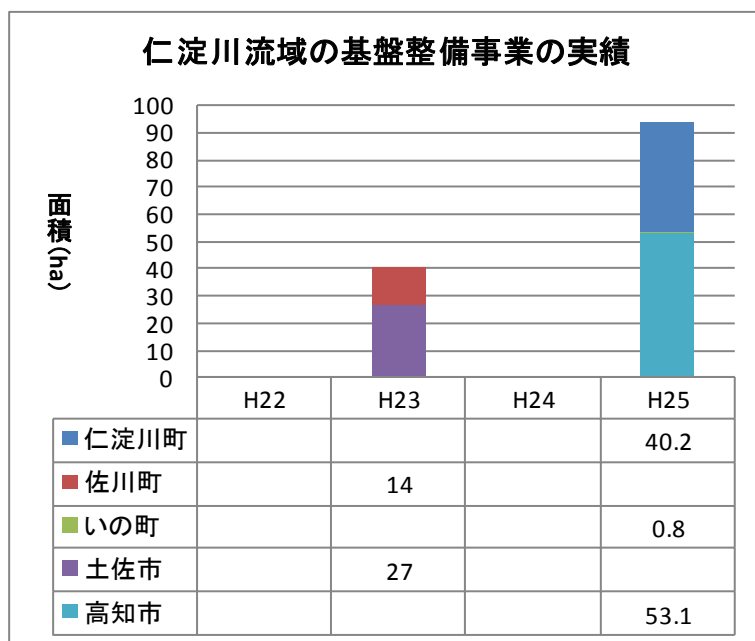
なお、森林保全ボランティア登録団体は、いの町 3 団体（会員数合計 174 名）、仁淀川町 1 団体（会員数合計 11 名）である。

5-4 耕作地の保全

■調査方法

農業基盤課へ参照。耕作地の保全として、基盤整備を行った実績を照会。

■実施状況



■まとめ

仁淀川流域の基盤整備事業の実績としては、平成 23 年度 41ha、平成 25 年度 94.1ha の取り組みが行われている。

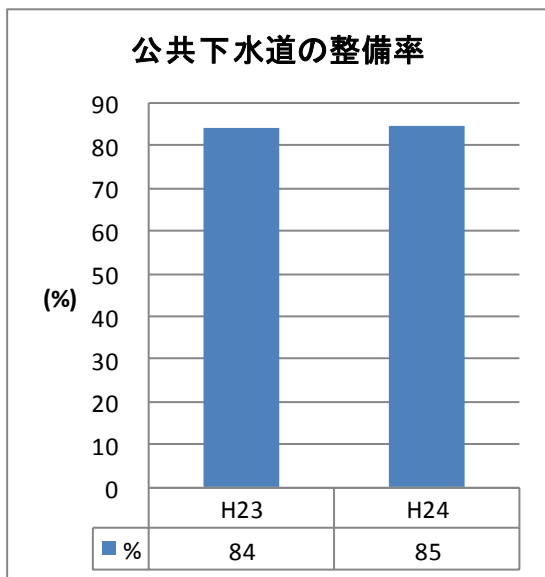
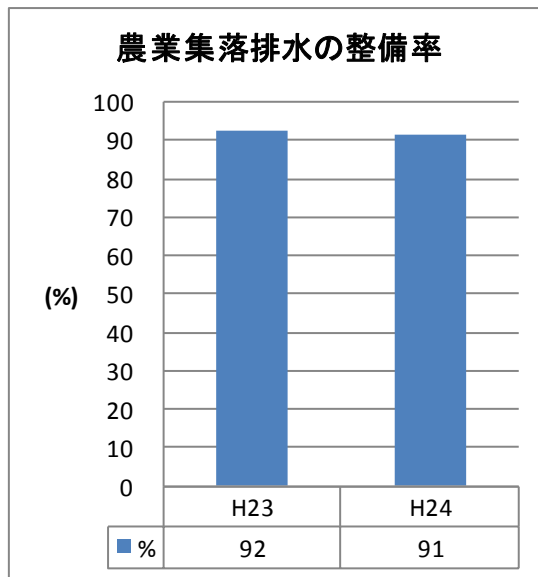
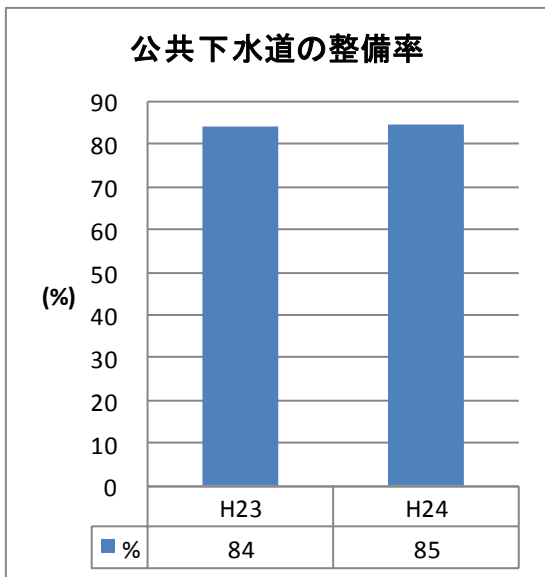
6 排水・汚水処理対策を進める

6-1 生活排水対策

■調査方法

公園下水道課へ参照

■実施状況



■行政の取り組み

- ・佐川町：佐川町合併処理浄化槽設置整備事業補助金の展開

生活排水による公共用水域の水質汚濁防止を行うため、合併処理浄化槽を設置するもの

に対し、補助金を交付している。

- ・土佐市都市環境課：平成 22～25 年 合併浄化槽設置費補助金事業を行う。
平成 22～25 年 マイエンザ（新環境微生物）の普及啓発活動を行う。
- ・高知市：高知市の水源地域の世帯に町役場等経由で台所用水切り袋を毎年配布。
仁淀川流域では仁淀川町を通じて、仁淀川町民に約 2000 セットを配布した。

■まとめ

公園下水道課に照会した公共下水道の整備率、農業集落排水の整備率、合併処理浄化槽の整備率に関しては平成 23 年、24 年とほぼ横ばいの状況である。行政団体は 4 市町村において補助活動、普及啓発活動が行われている。

6-2 地域における環境保全対策

■調査方法

流域住民団体、事業所等、行政等計 63 団体にアンケートを配布し、状況調査を行った。

■実施状況

確認できず。

6-3 事業系排水対策

■調査方法

流域住民団体、事業所等、行政等計 63 団体にアンケートを配布し、状況調査を行った。

■実施状況

- ・いの町：事業系排水対策 製紙工場排水処理施設整備補助 合計 2 件
平成 22 年 7 月 30 日 1 件 届出排水量 4302 m³/日
平成 24 年 4 月 10 日 1 件 届出排水量 3102 m³/日
処理後の排水中浮遊物質量を日間平均 10mg/1 未満、日最大 15mg/1 未満とする。

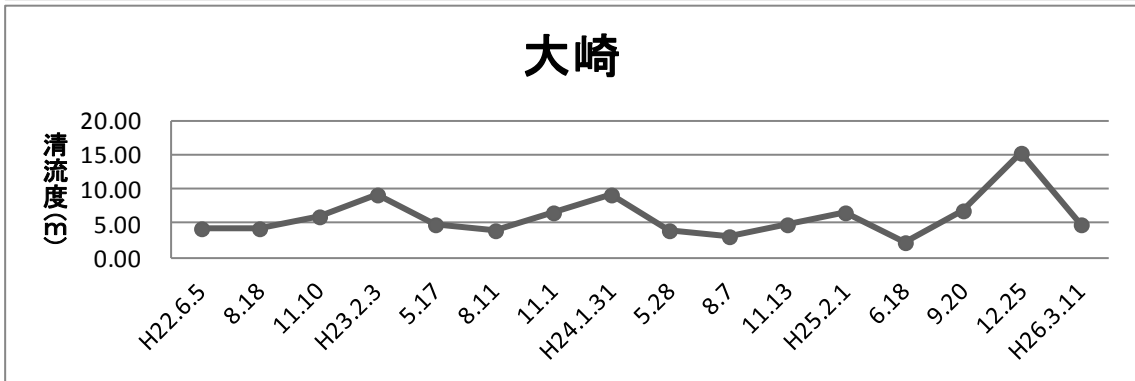
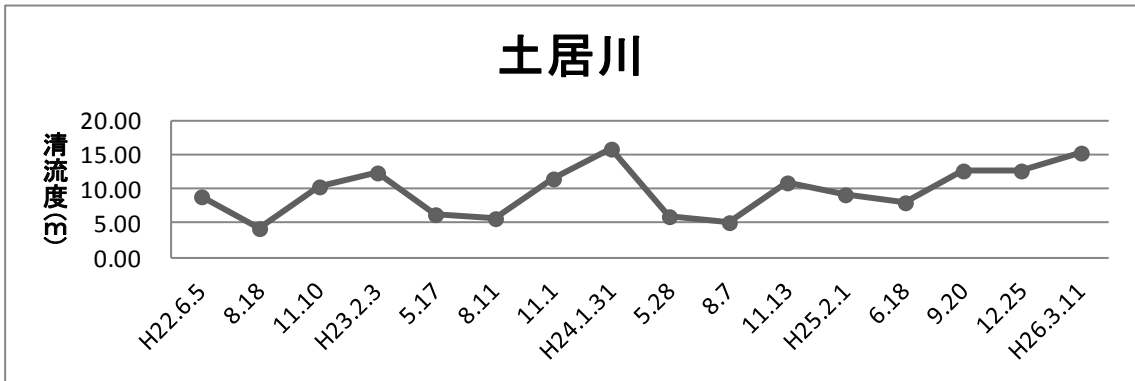
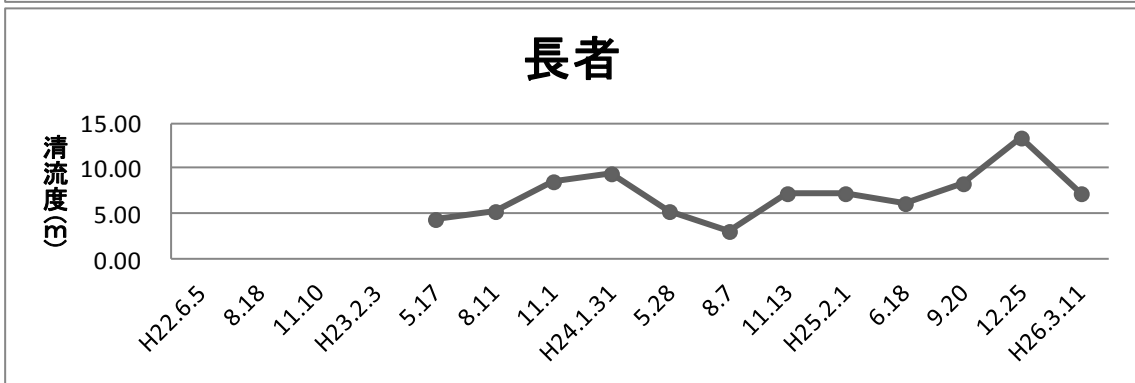
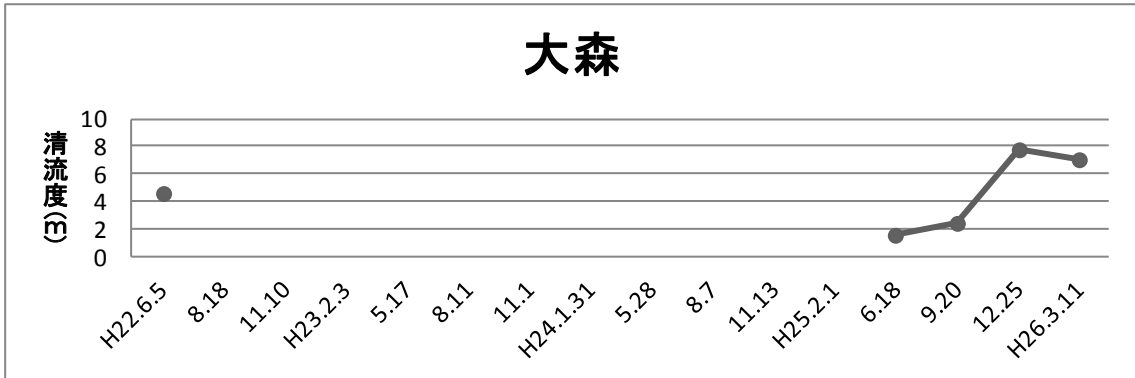
6-4 水質測定の測定結果と経年変化の分析

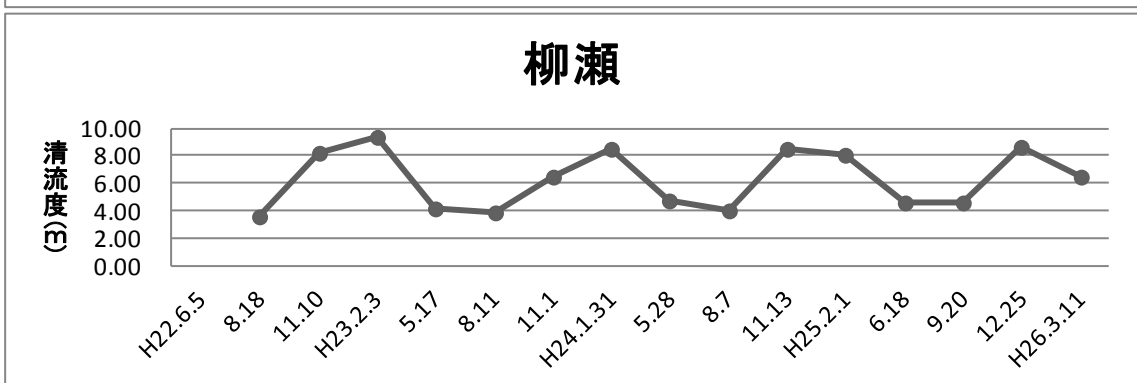
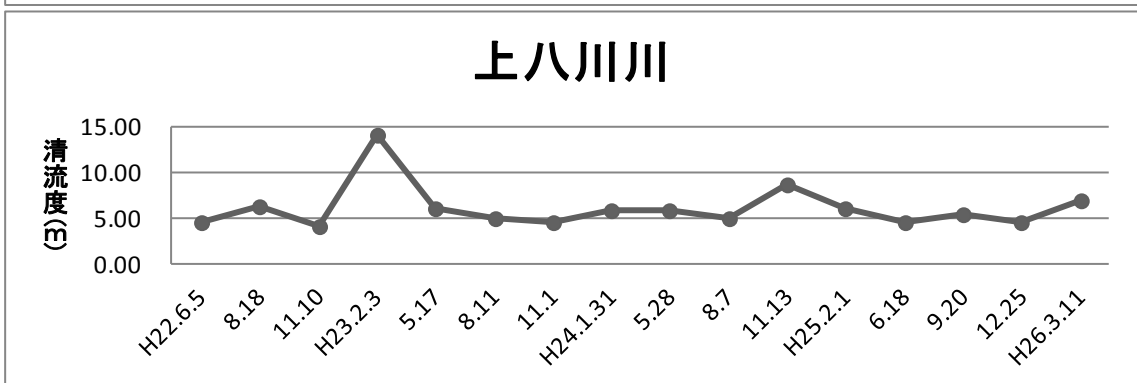
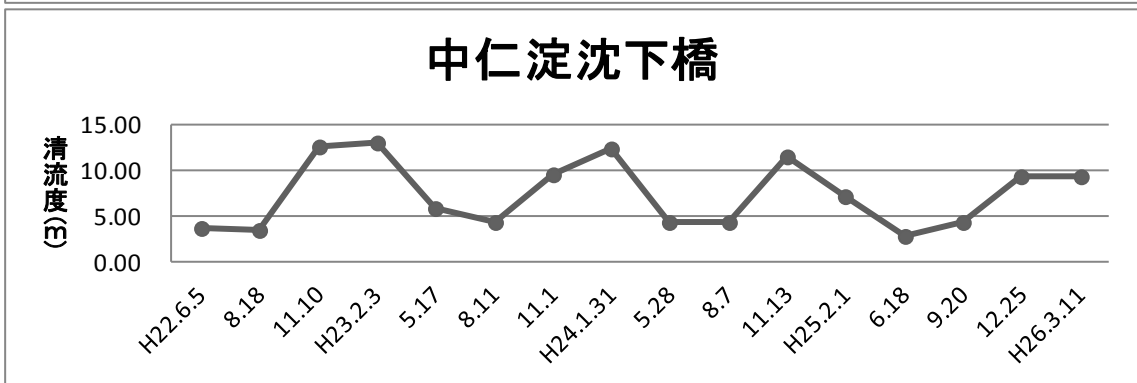
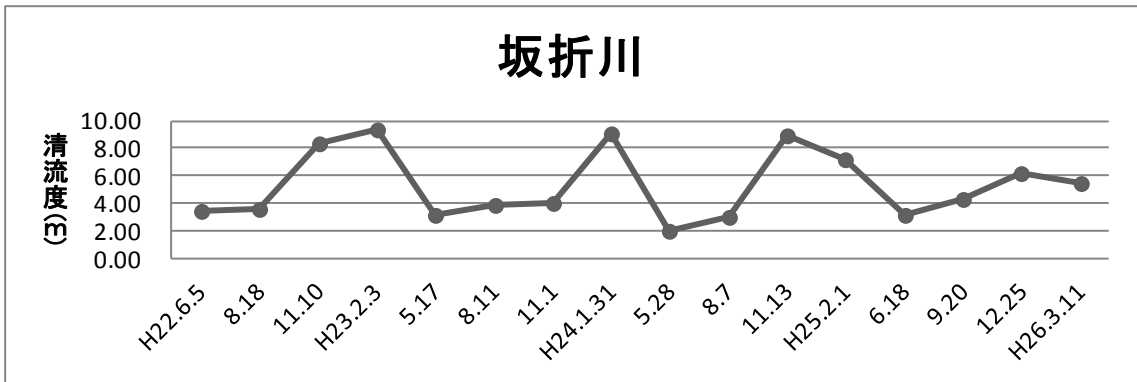
■調査方法

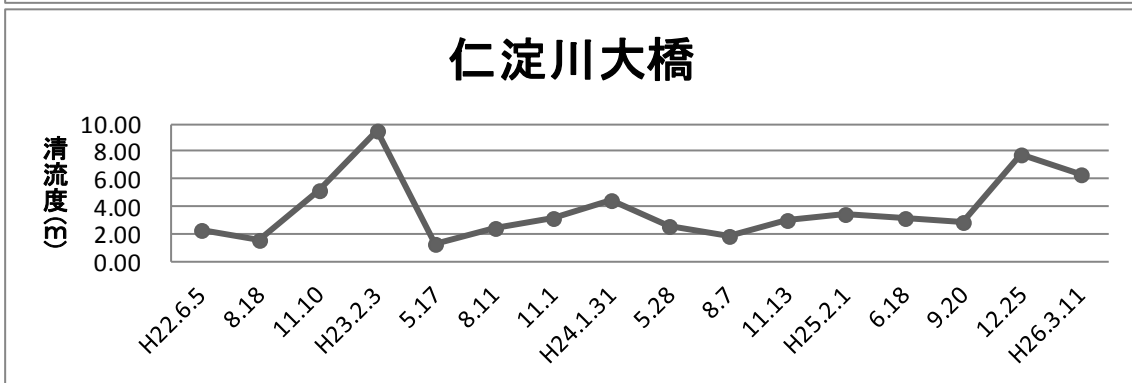
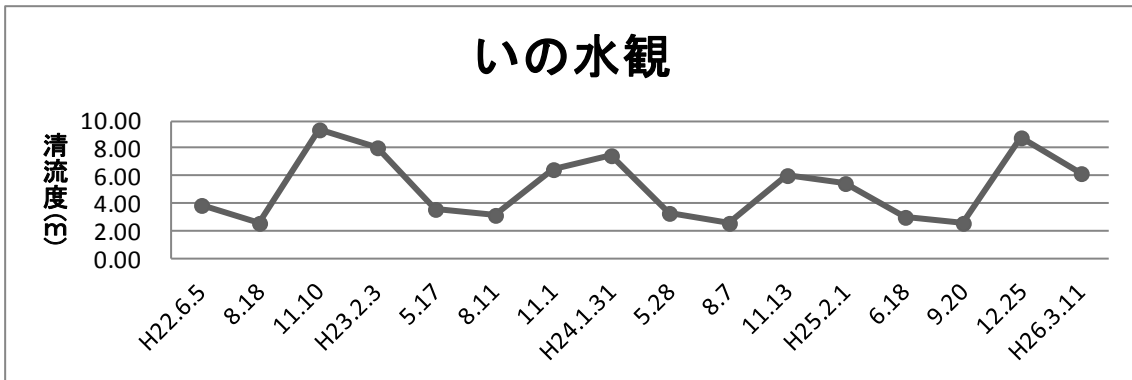
環境研究センターへ照会

■実施状況

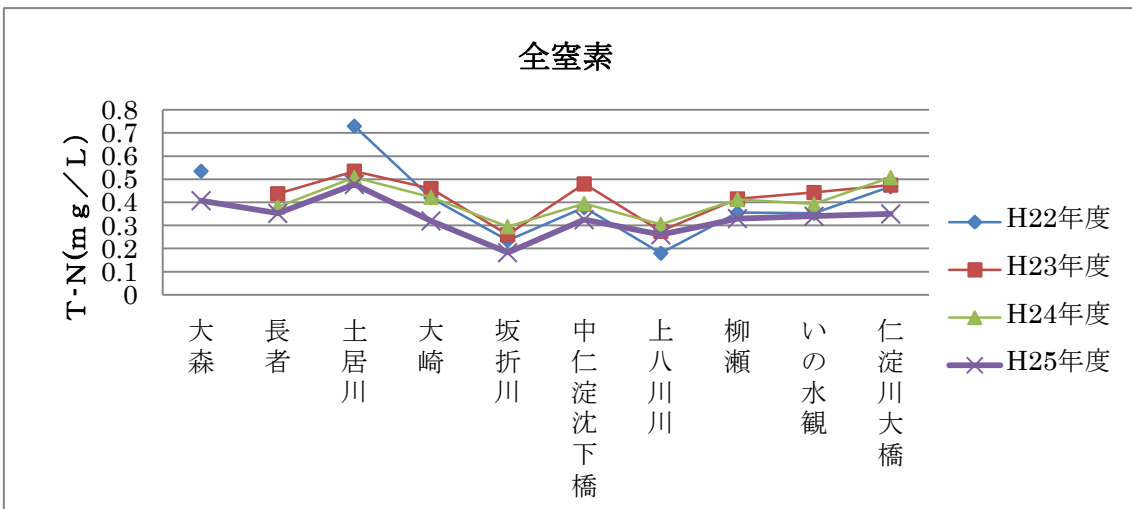
●清流量



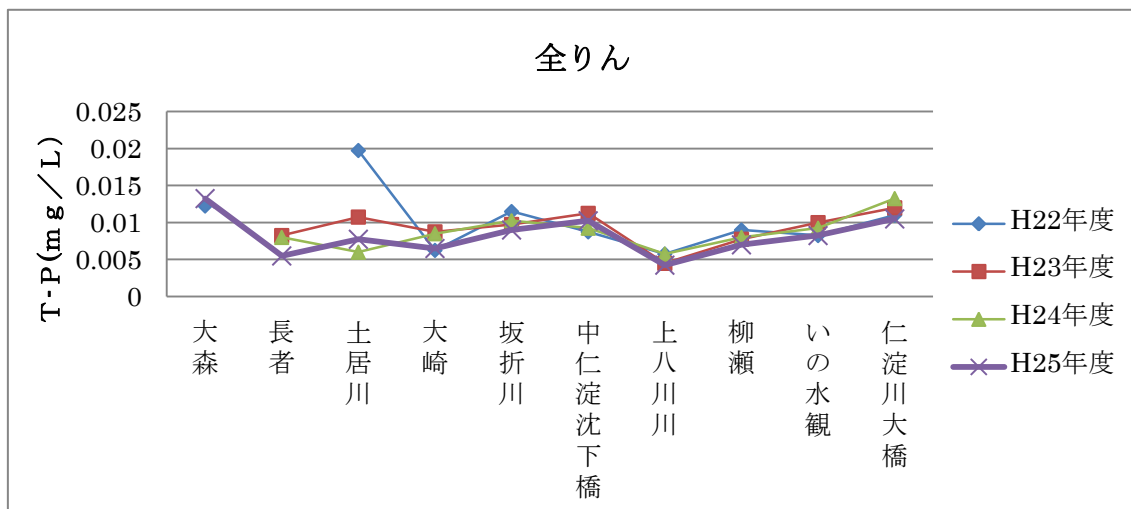




●全窒素



●全りん



■まとめ

清流度においては、四季変動が大きく、本川の6地点では春から夏の調査で1～6mを示し、秋から冬の調査で3～15mを示した。仁淀川に流入する支川は、長者で3～14m、土居川で5～16m、坂折川で2～9m、上八川川4～9mであり、上流のきれいな川ほど大きく変動し、春夏と秋冬の差が大きかった。上流域の本川、支川は天候等に左右されやすいが、下流域の地点については、年度間に大きな差はなく安定している。

全窒素は、支川の坂折川及び上八川川で0.2～0.3mg/Lを示し、他の地点では0.3～0.5mg/Lを示した。

全りんは、長者、大崎、坂折川、上八川川、柳瀬、いの水観測所は0.01mg/L未満を示した。しかし、土居川については、0.006～0.011mg/Lと年度間で大きな差があり、中仁淀沈下橋で0.009～0.012mg/L、仁淀川大橋で0.01～0.014mg/Lを示した。

また、上流の支川である土居川については、清流であるにもかかわらず、全窒素、全りんとも季節や年度で変化が大きく、人為的要因もしくは自然系要因が影響していると考えられる。(環境研究センターによる分析)

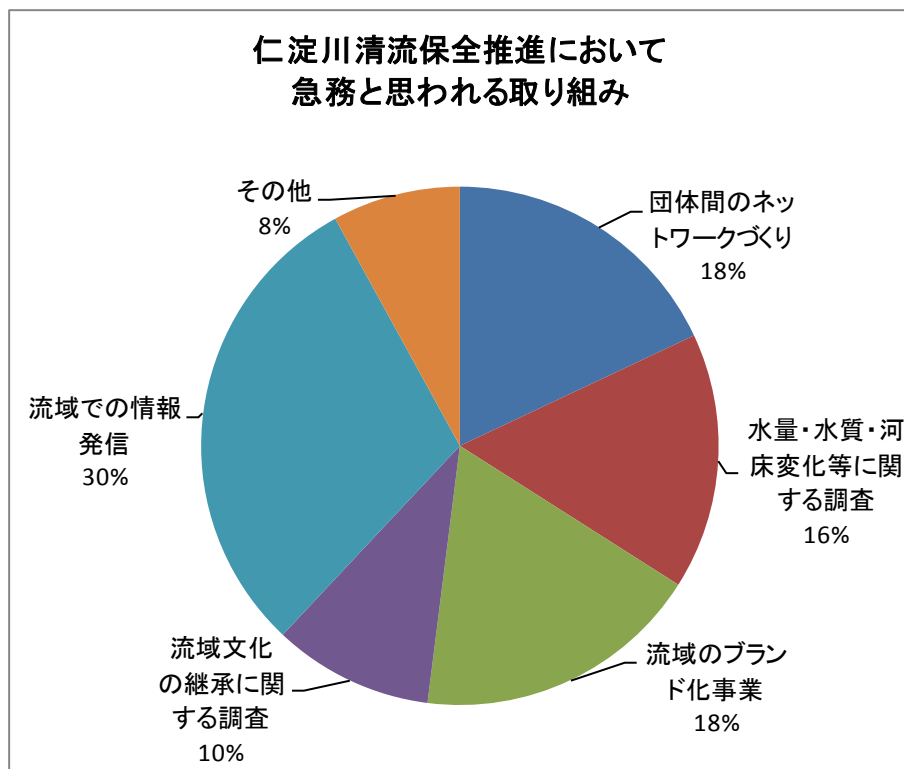
参考資料 1 仁淀川清流保全推進において急務と思われる取り組み

■調査方法

1-1 回収アンケートより該当項目を調査。

回答団体 26 組、回答数 50 件（複数回答）

項目	団体	合計	割合(%)
団体間のネットワークづくり		9	18
水量・水質・河床変化等に関する調査		8	16
流域のブランド化事業		9	18
流域文化の継承に関する調査		5	10
流域での情報発信		15	30
その他		4	8



■まとめ

流域での情報発信が 15 件と最も多く、続いて流域のブランド化、団体間のネットワーク作りと続く。総じて仁淀川のさらなるイメージアップに向けた取り組みが急務と考えられていることがわかる。

参考資料2 取り組み項目中、優先順位の高い項目（3つを選択）

■調査方法

1-1 回収アンケートより該当項目を調査。

回答団体 17 団体、回答総数 49 件（複数回答）

テーマ	団体				計
	項目	1位	2位	3位	
①子どもたちを川へ呼び戻す	1.親子で川にふれあう行事の充実・広報活動	1	2	0	3
	2.子どもたちの水生生物・水生植物の生息調査や水質調査への参加機会の拡大	0	2	1	3
	3.安全・安心で快適な水辺空間の整備	3	0	0	3
	4.学校での環境学習の実施	0	0	1	1
②水文化を継承する	1.流域の水文化に親しむ機会の拡大	0	1	2	3
	2.グリーンツーリズム活動の推進	0	0	0	0
	3.仁淀川にまつわる民話や伝説の収集	0	0	0	0
③川本来の生態系を取り戻す	1.多自然川づくりの実施	0	0	1	1
	2.水生生物や水生植物の生息調査の実施	0	0	0	0
	3.川にすむ動植物の繁殖対策	0	3	0	3
④美しい景観を保全する	1.「仁淀川一斉清掃の日」の制定	0	0	0	0
	2.仁淀川へ遊びに来る人へのマナーアップ運動の啓発・広報	2	0	1	3
	3.仁淀川における水辺の環境保全活動の普及促進	4	0	3	7
	4.水辺林の適正な整備の推進	0	0	0	0
⑤豊かな水量を確保・維持する	1.健全な森づくりによる山の保水力の回復	4	1	2	7
	2.地球温暖化対策に着目した森林整備	1	0	0	1
	3.森林組合・森林ボランティアを活用した森林整備	0	0	2	2
	4.耕作地の保全	0	0	2	2
⑥排水・汚水処理対策を進める	1.生活排水対策	1	3	0	4
	2.地域における環境保全対策	0	3	0	3
	3.事業系排水対策	1	1	1	3
	4.水質測定の測定結果と経年変化の分析	0	0	0	0
計		17	16	16	49

■まとめ

項目「仁淀川における水辺の環境保全活動の普及促進」及び「健全な森づくりによる山の保水力の回復」を優先順位のトップにあげた団体が多い。テーマで見ると「子どもたちを川へ呼び戻す」活動への取り組みを優先順位高く上げている団体が多い。

逆に、テーマ「水文化を継承する」に関しては、0回答の項目が多い。「仁淀川一斉清掃の日の制定」の0回答に関しては、取り組みが十分達成されているからと考えられる。